

<株式会社エフエム東京 第 485 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 4 年 2 月 1 日（火）
2. 開催形式：リモートにて開催
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長	秋 元 康 委員
川上 未映子 委員	佐々木 俊尚 委員
松田 紀子 委員	山口 真由 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（8 名）

唐 島 代表取締役会長
黒 坂 代表取締役社長
小 川 取締役
内 藤 執行役員編成制作局長
延 江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局次長 兼 編成部長
若 杉 編成制作局制作部長
松任谷 執行役員戦略プロデュース室長

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 20 分）

『TOKYO SPEAKEASY』

1 月 24 日（月）25：00～26：00 放送のダイジェスト

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■2021 年 12 月度 聴取率調査結果

2021 年 12 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果を報告します（調査期間：2021 年 12 月 13 日～19 日）。まず首都圏ラジオ全体の全日平均【男女 12-69 才】個人全体聴取率＝全局のセットインユースは、前回（10 月度）5.0%→今回（12 月度）4.7%に減少しました。セットインユースはコロナ直後の 2020 年半ばに 5%台後半まで上昇したのをピークに漸減傾向にあります。

そうした中、当社のコアターゲット【男女 18-49 才】の聴取率は、今期 10 月までは 4 回調査のうち 3 回はトップで 1 回は 2 位だったところ、今回 12 月調査では 3 位に低落してしまいました。年代別では、【M1F1（男女 20-34 才）】【男女 20 代】区分で在京トップを獲得できたものの、とりわけ前回まで好調に推移していた【男女 30 代】【男女 40 代】区分で今回スコアが目立って減退してしまいました。なお、前回（10 月度）で在京単独首位となった個人全体【男女 12-69 才】区分は、今回第 2 位（同率）となりました。

ビデオリサーチの調査は、毎回 5,000 人のサンプル全員が入れ替わるため、3 回程度の調査結果を総合して検証すべきものではありませんが、メインターゲットで 3 位という落ち込みについては、安定した力が身につけていないことの証左ともいえます。今回とりわけ M2 層（35～49 歳男）の落ち込みが顕著で、ラジオらしい思い切った社会関心事の取り上げ方や、選曲についても掘り下げ方が甘かった点、さらには話題を喚起する仕掛けがなかった点など、反省点をリストアップして改善に向けて早急に対処してまいります。

■1 月 9 日（日）『NISSAN あ、安部礼司』オンラインフェスティバル 2022 『ABE Tube』開催

TOKYO FM をはじめとする JFN 全国 38 局で放送中の、平均的なサラリーマンの日常を描いた大人気ラジオドラマ『NISSAN あ、安部礼司～BEYOND THE AVERAGE～』（日曜日 17:00～17:55 放送）では、1 月 9 日（日）16 時から約 4 時間に渡り、オンライン生配信イベント「NISSAN あ、安部礼司 オンラインフェスティバル 2022 『ABE Tube』」を TOKYO FM 公式 YouTube LIVE と LINE LIVE にて開催しました。毎年、横浜の日産グローバル本社ギャラリーで公開放送イベントを開催し、3 万人近くの来場がありましたが、コロナ禍となった昨年以降はオンラインでの開催となっています。

<第 485 回放送番組審議会>

16 時台は、ドラマの舞台となっている神保町の喫茶店「さぼうる」からの全国のリスナーと映像でつながる生トーク、17 時台は、生放送の裏側を映像生配信、そして 18 時から行った生ラジオドラマでは、ゲストに真心ブラザーズらを迎え生演奏とラジオドラマのコラボレーションをお届けしました。YouTube Live、LINE LIVE 合わせた累計視聴者数は、約 13 万人。TOKYO FM の公式 YouTube チャンネルでは、第 3 部の生ラジオドラマのアーカイブ配信が、2022 年 3 月末まで、視聴可能です。



▲16 時台喫茶店「さぼうる」からの生トーク



▲17 時台スタジオから生放送の裏側を映像生配信



▲18 時台生ラジオドラマ配信



▲18 時台生ラジオドラマ配信



▲生ラジオドラマ 小手伸也氏ゲスト



▲生ラジオドラマ 真心ブラザーズによる生ライブ

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○前回、10月の聴取率で歴史的な首位を獲得して、今回3位に落ちたということで、30代、40代のスコアが落ちたと説明があったが、原因はあるのか。

■今回、我々が分析している原因としては、これまでは30代、40代のリスナーにも向けた番組作りや選曲を心掛けてきたわけだが、12月の聴取率調査期間に試みた企画の反省として、昨年のエンタメ界の流行のひとつにあったボーイズグループをフィーチャーしすぎたことがあったと認識している。ゲストブッキングも好調に進み、若い人にかなり支持されているという実情もあり、企画というよりは、そういった人気グループを全面に押し出す放送になったことで、元々聴いてくれていた30代、40代からは「(聴きたいものと)違うかな」と思われてしまったのではないかということがある。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

『TOKYO SPEAKEASY』

1 月 24 日 (月) 25 : 00 ~ 26 : 00 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、平日月～木 25 時から生放送中の秋元康氏企画・監修の『TOKYO SPEAKEASY』のダイジェストです。この番組は、毎晩日替わりで、2 人の出演者が深夜にスタジオに集い、台本のない“ガチ生トーク”対談をお届けしています。禁酒法の時代のアメリカで、こっそりひそかに営業していたバーの文化「SPEAKEASY (スピークイージー)」にちなみ、タイトルも秋元康氏が命名。俳優の國村隼氏のナレーションで、架空のバー『TOKYO SPEAKEASY』を舞台としたこの場所でしか聞けない二人の会話が繰り広げられていきます。2020 年 4 月の放送開始から、様々な対談が繰り広げられ、この番組をキッカケに新たな企画が生まれるなどしてきました。

今回お聴きいただく 1 月 24 日の放送回では、昨年大晦日の「紅白歌合戦」をもって乃木坂 46 を卒業した生田絵梨花氏と、第 18 回ショパン国際ピアノ・コンクール第 2 位入賞のピアニスト反田恭平氏という旬の 2 人が対談しました。通常は生放送でお届けしていますが、スペインでのコンサートのための出国が放送日と重なったため、直前に収録しお届けしました。

知人を介した繋がりもあり、初めてドームでのライブに行ったのが乃木坂 46 だという反田恭平氏が、クラシックピアニストの視点からアイドルグループのライブや楽曲を語ります。また、幼少の頃住んでいたドイツでピアノを始め、音楽高校、音楽大学へと進んだ生田絵梨花氏が、アイドル活動の中ではあまり見せないピアノへの想いを、本格的に音楽を学んだ者同士の会話として反田恭平氏が引き出します。それぞれの意外な一面を引き出し合う放送回となりました。

【委員の意見および社側説明】

〔○〕委員意見／〔■〕社側意見

○國村準氏がとても良く、声だけで癒された感があり、冒頭のアナレーションが本当に盗み聴きというコンセプトに合うしっとりとした出だしで、感情をくすぐられるわくわく感があった。

○今回取り上げた試聴回はピアニスト反田恭平氏と乃木坂 46 の生田絵梨花氏という組み合わせだが、反田氏の乃木坂 46 への感想や独自の解説は大変興味深く、音楽家としての視点やこだわりを感じることができた。しかし、生田氏が褒められたことに対して、「わー嬉しい」みたいな反応ばかりだったのが残念だった。ファンはかわいいと思って聴けるかもしれないが、純粹に番組として聴いていると、言語化能力がないのはもったいないと感じてしまった。なかなか自身の声などをプロの、違ったジャンルの音楽家がこんな風に解説する機会はないと思うので、「わー嬉しい」だけでなく、もう少し会話になればよかったと思う。

○番組のコンセプトがバーの隣のカウンターで喋っているお客さんの話を盗み聴き、ということなので、もう少しそれが伝わる演出だと良かった。もっとドキドキ感があったり、何かヤバいことを聴いてしまったな、という雰囲気だったり。日替わりのパーソナリティということなので、この回だけで判断するのは難しいので、今後も聴き続けてみたいと思う。

○盗み聴きをしているような雰囲気は終始あったと思う。ただ、内容がとても薄く感じてもったいなかった。反田氏はショパンコンクールの栄光だけでなく、異色の経歴の持ち主で、ユニークな活動もしている。まだ若いのに経営者のような視点も持ち、外に外にという開かれた感性ももっている。生田氏も音楽活動はされてきた方なので、もう少し音楽についての考えなどが聴けるかなと思ったし、実際にそういう方向に話が向かいそうな部分もあった。しかし、結局話はそちらへは向かず、反田氏が生田氏を褒めて生田氏が恐縮する、の繰り返し。せめてお互いのパーソナルな話でもあれば良かったと思う。

○大変面白く拝聴した。深夜 1 時の生放送。どこかにある禁酒法時代のバーでこっそり話をしているという設定はこの時代にさすがだと共感した。少し前までは、テレビやラジオなどのマスメディアが表舞台だとすれば、ネットは裏、ある意味隠れ家的な場所だという印象を持つ人が多かった。それが、SNS など、全てが URL で補足されてしまうようになると、誰からもフォローされていない、それまでは知り合いしか見ていないと思っていた SNS や、誰も読んでいないと

思っていた個人的なブログなどでこっそり変なことを書いていたはずが、何かの拍子に共有されて **Twitter** などで大炎上するということが頻繁に起きるようになった。もはやネットは隠れ家ではなくなっている。けれど、隠れ家的なものを人は求めているはず。最近、例えば **Voicy** のような音声プラットフォームが流行ってきている。テキストで一瞬で共有できるものに比べて音声で伝えたことは即座に批判の対象にされない。深夜ラジオというのはそういう場所になりつつあると感じた。聴きたければ聴けるが、何となく秘めた場所。その方向性にこの番組はとてもマッチしていると思う。先ほど委員から、「内容がない」という意見があったが、それには確かに賛同する。しかし、それでいいのではないかと思う。質を求めなくても、例えば人気 **YouTube** コンテンツは、もちろんすぐく計算されているけれど、聴いてみると単に知り合いの家で雑談を聴いているだけのような雰囲気がある。裏では計算されているかもしれないが、完成されたコンテンツとして見せていない。完成されたコンテンツは息が詰まるというか、**YouTube** ってもっとダラダラと見たい・聴きたいというのがあるのだと思う。そういう意味で、この深夜 1 時に生放送しているこの番組は非常に好意的に聴いた。

○カジュアルで親密感のある会話を面白く聴いた。反田氏は表現力が高く、そして、生田氏のことがとても好きでリスペクトをしているのが話の端々から伝わって来た。全然ジャンルの違う、クラシックとアイドル。反田氏の言葉で語られる乃木坂 46 の音楽がとても新鮮に感じられた。以前に聴いた、**TOKYO FM** の番組でのハマ・オカモト氏と細野晴臣氏の対談を聴いた時、ある委員が「時代性を無視した音楽の偶発的な出会いみたいなものが **TOKYO FM** にはできる、そういうメディアだ」と言っていたのがとても印象に残っている。時代もジャンルも無視して、音楽が偶発的に出会い、音楽を普遍的に探る。そういう使命が **TOKYO FM** にはあるのかなと。そういう意味でもクラシックとアイドルという組み合わせはとても興味深く拝聴した。

○この回に面白さを感じなかった。毎日違う組み合わせで放送していてこの回を試聴回に選んだというので、どこかに面白みがあるのかと思ったけれど、それは感じなかった。話が物足りない。ただ、話が物足りないこと自体は悪くはないとも思う。他の委員からも意見があったが、緩くてもそのまま出すのがコンセプトというのでそれでいいと思う。しかし、本当に盗み聴きなら、自己紹介もなく始まり、勝手に話していくはず。話しているのが誰だかわからず聴いている人がいてもいいと思う。それが、本人たちがきちんと自己紹介をして、分かりやすい番組にしようとして、よくあるラジオ番組の型にはめた作りになってしまっている。では、そういった最大公約数を狙った、聴きやすいよくできた番組かといえ

ば、全く突っ込んだ会話もない、物足りないやりとりに終始している。ラジオファンを勝手に想像して、尖っていたはずのものをどんどん丸くした結果なのは。内容をしっかり作るのか、とことん尖るのかどっちかにした方がいい。内容をしっかり作るのであれば、裏の AM 局の番組には勝てないと思う。だったらもうラジオファンがどうか考えず、とにかく変な番組を作った方がいい。腹をくくってこれはダラダラとバーでしている会話の盗み聴きです、と。TOKYO FM はもっと攻撃的に番組を作った方がいい。番組表に予定されていないことをやったっていい。新しい企画を立ち上げて、コンセプトを掲げても、結局普通の番組を作ってしまうのが残念だと思う。

■確かにおっしゃる通りの部分がある。もう少し演出というか、こうすれば番組が面白くなるということを考えられたと思う。どうしても毎日、日替わり出演者の放送となると、日々のブッキングに追われて、そちらにばかり気をとられて、そこからどうやって面白くしていくかというところが足りなかったと思う。しかし、これまで 300 回以上放送を重ねてきて、すごく面白い回もあった。逆に、どうしても予定調和に終わってしまう回もあって、バラツキがあるのも事実。番組をより面白くするためにどうするかもう少し考えていきたいと思う。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

2月26日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>